

医療機関で働く皆さまへ

発達障害のある人への対応のポイント

病気になったとき、発達障害のある人もそうでない人も医療機関を受診することがあります。

しかし、自閉症などの発達障害のある人が医療機関を受診したときに、触らせない、暴れる、本人の訴えが分からないことなどから、診療に困難を感じる場合があるのではないのでしょうか。

でも、そこには必ず本人なりの理由があり、また、それなりの対応方法があります。ちょっとした工夫が驚くほどの効果をもたらすこともあります。

このリーフレットには、「発達障害のある人への対応方法例」、「広汎性発達障害から自閉症スペクトラム障害へ」、「身近な相談先」を掲載しています。

このリーフレットが、医療に従事する皆さまのヒントになれば幸いです。



北九州市

発達障害のある人への対応方法例

診療場面では、下記に示すような対応が役立つことがあります。まず、ご家族に状態を聞かれるとよいでしょう。

1 見通しが持てると安心できます。

慣れない状況下では多くの方が不安感を持ちます。例えば、どんな器具を、どこに、どのように、どのくらいの時間使うのか等を本人に伝えることで見通しを持つことができ、安心して診療を受けられることが多くなります。

不安があって落ち着かないとき



(ポイント) 何をするのか事前に教えてみましょう。

例えば、耳鼻科で耳の中を扱うとき、器具を見せながら、「これを耳の中に入れます」「5数えるまでクルクルしますよ」など少ないことばで何をするのかを伝え、診療の流れがわかることで不安が減り、安心して診療を受けられることが考えられます(たくさんのことばで話しかけられると混乱してわからなくなってしまいます)。

(ポイント) 見せて納得させてあげましょう。

例えば、ボードに薬を並べて、「この薬を使いますよ」と本人に見せることで、納得できる場合が多くなります。



(ポイント) あとどのくらいで終わるのか伝えてみましょう。

例えば、注射の時、お医者さんが「10 数えたら終わりですよ」と伝えることで見通しが持て、数えながら注射をすると、我慢して注射を受けてくれようとしています。

終わった時には、「がんばったね」とほめましょう。

2 待つことやじっとしていることが苦手

(ポイント) 具体的に伝えてみましょう。

例えば、「うろうろしないで」と言うより、

「座って待ちましょう」と伝えの方がわかりやすいです。

また、ことばで伝えるよりも、してほしいことを「紙に書いて見せて伝える」方が効果がある場合があります。

この場合も、「時計の長い針が 10 のところに来るまで座っていてください」とか「5分座っていてください」など、見通しの持ちやすい短い提示がよいでしょう。

「時間がきたら教えてね」と伝えておくと、伝え方も忘れることがなく安心です。

待つことができたときはほめましょう。ほめられることで、次の提示ができる可能性がみえてきます。

待合室をうろうろして他の患者さんの迷惑になることがあるときは？



じっとしていられずに診療ができないときは？



(ポイント) 注意する、叱ることは逆効果に。落ち着いた対応が混乱を防ぎます。

注意したり叱ったりすることが、かえって逆効果になることがあるので、できるだけ落ち着いたトーンで話しかけましょう。

本人のお気に入りのものがあれば、それを持ってきてもらうとよいでしょう。

診療の際、場合によっては「動く」「暴れる」などにより、危険性が考えられますので、一旦診察室から出てもらい、気分を変えてから入室してもらう方法もあります。

診察室での診療が困難な場合、診察室でない他の部屋での診療の検討も考えられます。



感覚が過敏なときは？



3 感覚は一人ひとり異なります。

(ポイント) どこの部位を、何を使って、どのくらい触るのかを教えてください。

触診する場合、急に体に触られると驚くことが多いので、体に触れる前に、例えば、「今からお腹を5つ数える間触りますよ」など、触る部位や時間(数)などを伝えると安心できます。

視覚、聴覚、触覚、味覚、痛覚等感覚は、「照明がまぶしすぎる」「静かな部屋でないとな人の話が聞きとれない」など、過敏であったり鈍感であったり、人によって異なるので、事前にご家族に聞いておかれるとよいのではないのでしょうか。



DSM-IVからDSM-5へ

DSMとは、アメリカ精神医学会が発表している、Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (日本語訳：精神疾患の分類と統計の手引)であり、略語がDSMです。DSM-5はその第5版ということです。



広汎性発達障害から自閉症スペクトラム障害へ

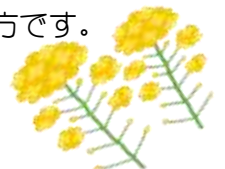
広汎性発達障害は、自閉症を中心として、自閉症の特徴のある状態を総称したものをいいます。

広汎性発達障害の中心にあるのは、対人関係とコミュニケーションの障害です。その中で、知能の遅れとことばの遅れがあるものが従来の「自閉症」のイメージで、知能の遅れの軽いものが「高機能自閉症」、さらにことばの遅れの軽いものが「アスペルガー症候群」と考えることができます。

知能においても低い人と高い人の間には、さまざまなレベルとタイプの人たちがいて、ことばの獲得時期や会話能力でも大きな個人差があります。

現在では、広汎性発達障害に含まれるこれらのタイプは、独立したものではなく、お互いが連続していると考えられています。これが、「自閉症スペクトラム(連続体)障害」という捉え方です。

平成25年5月、アメリカ精神医学会から19年ぶりにDSM-5が発表となり、診断名等日本語訳の作業が進められています。



(監修)

北九州市立総合療育センター 小児科
九州労災病院 精神科・ストレス科

副所長 河野 義恭氏
副部長 下村 泰斗氏

身近な相談先

紙面の都合上「内容」につきましては、簡略化しております。

内 容	相 談 先	住 所 / 電話番号
各種福祉制度の窓口。 障害福祉サービスについての相談や申請など。 障害者の生活上の相談や保健の指導、こころの健康や精神障害等についての相談など。	各区役所の高齢者・障害者相談コーナー 	門司区：093-321-4800 小倉北区：093-582-3430 小倉南区：093-952-4800 若松区：093-751-4800 八幡東区：093-671-4800 八幡西区：093-642-1441（代表） 戸畑区：093-881-4800
障害者虐待に関する相談・通報等の受付。 障害者・養護者に対する支援など。	北九州市障害者虐待防止センター	ウエルとばた 6F 093-861-3111
障害者のための第一次相談窓口。 障害のある人の住まい・暮らし全般に関する相談。	北九州市障害者基幹相談支援センター	ウエルとばた 6F 093-861-3045
18歳未満の子どもにおける心身の遅れ、非行、不登校、虐待、障害児施設利用等の相談など。	北九州市子ども総合センター	ウエルとばた 5F 093-881-4556
身体又は知的に障害のある人の各種の相談、必要な判定・訓練及び助言指導など。	北九州市障害福祉センター	総合保健福祉センター 3F 093-522-8724
こころの健康の保持推進。精神障害者の自立支援に関する専門的・技術的支援など。	北九州市精神保健福祉センター	総合保健福祉センター 5F 093-522-8729
障害のある方たちの診療・療育・訓練・相談並びに通所や通園による療育など。	北九州市立総合療育センター	北九州市小倉南区春ヶ丘 10-2 093-922-5596
特別な支援の必要な幼児・児童・生徒やその保護者、学校への専門的な相談・支援など。	北九州市立特別支援教育相談センター	北九州市小倉南区春ヶ丘 10-2 093-921-2230
15~39歳の悩みや課題を抱える子どもや若者の育成支援や就労に関する総合相談窓口。	子ども・若者応援センター 「YELL」（エール）	ウエルとばた 2F 093-882-0188
社会的ひきこもりに関する相談、フリースペースの開催、当事者会など。	ひきこもり地域支援センター 「すてっぷ」	ウエルとばた 2F 093-873-3130
障害のある方の就労に関する相談、サポートなど。	北九州障害者しごとサポートセンター	ウエルとばた 2F 093-871-0030
15~39歳の就労へ一歩踏み出せない若者及び家族を対象に自立支援など。	北九州若者サポートステーション	北九州市小倉北区浅野 3-8-1 AIM 2F 093-512-1871
発達障害についての全般的な相談・助言、情報提供や情報発信、普及啓発、専門性を高めるための研修など。	北九州市発達障害者支援センター 「つばさ」 <詳細> 若松区の西部分所での相談も受付けています。	北九州市小倉南区春ヶ丘 10-2 http://www.tsubasa.kitaq-src.jp 093-922-5523



相談先の住所

「ウエルとばた」：北九州市戸畑区汐井町 1-6

「総合保健福祉センター」：北九州市小倉北区馬借 1丁目 7-1

リーフレットの問い合わせ先：北九州市発達障害者支援センター「つばさ」Tel 922-5523

（「身近な相談先」につきましては、紙面の都合上掲載されていない機関がございます。）

